

令和 6 年 度

事業活動報告書

- * ケアハウスラフォーレ国分寺
- * 訪問介護事業所アップル
- * グループホームあいむ
- * 特別養護老人ホームアイムの杜
- * デイサービスセンターアイムの杜
- * ショートステイあいむ
- * グループホームアイムの杜
- * ショートステイたちばな荘
- * ナーシングホームあいむ
- * プラチナハウスアイムの杜

社会福祉法人
柊 会

令和6年度 軽 費 老 人 ホ ー ム
 ケアハウスラフォーレ国分寺
 事 業 報 告

ケアハウスは、施設運営の基本方針に基づき、ご入居者が快適で安全な老後を送れるよりよい生活環境を提供するため一層のサービスの向上を目指して参りました。また、介護を必要とする状態となった場合、現在の住み慣れた環境で生活できるよう特定施設入居者生活介護サービスを利用できる混合体制を整えています。入居状況は定員50名中、令和7年3月31日現在18名（一般0名、特定入居者18名）です。

<介護度別入居状況>

令和7年3月31日現在

介 護 度	男 性	女 性	合 計(人)
健 全	0	0	0
要支援1	0	0	0
要支援2	0	1	1
要介護1	4	2	6
要介護2	3	1	4
要介護3	1	0	1
要介護4	1	2	3
要介護5	1	2	3
計	10	8	18

<入居者年齢状況>

令和7年3月31日現在

	60～	70～	75～	80～	85～	90～	計(人)
男	0	1	2	1	0	4	8
女	0	0	2	2	1	5	10
計	0	1	4	3	1	9	18

<平均年齢>

令和7年3月31日現在

男	女	全体(歳)
85.1	88.0	86.7

<出身市町村別入所者状況>

令和7年3月31日現在

市町村	高松	坂出	丸亀	綾川	まんのう	計(人)
男	8	0	0	0	0	8
女	8	1	0	1	0	10
計(人)	16	1	0	1	0	18

<生活とケアのあり方>

1. 快適な老後生活への手助けとなるサービスを提供できるよう努めた。
2. 職員は、入居者のプライバシーを尊重するとともに、中立性を保った。
3. ご入居者の生活状況やご家族の状況及び心身の健康状況を把握し、よき相談相手となり又適切な助言が出来るよう努力した。
4. 協力医療機関と緊密な連絡・調整を図り夜間を含めた緊急時の管理体制を整えた。

<職員の意識改革>

1. 快適な生活環境への配慮を心掛けるとともにスタッフの質を向上させる為研修を実施し現実的な視点やアイデアを身につけるように努めた。
2. 毎月1回職員会議で、各種委員会・研修等をし、同時に給食委員会を行った。

<生活の安全対策>

1. 建物設備の維持管理
建物設備の清掃点検を心がけ、維持・保守管理を徹底した。
2. 防災対策
防災機器の定期点検、夜間火災想定避難訓練を年2回実施、緊急連絡網の整備をした。また、洪水時の避難確保計画を作成した。
3. 感染対策
 - ① 衛生管理について浴室・台所の水回りの害虫駆除を年2回実施した。
 - ② 感染予防に対する勉強会を行い、知識と意識の向上に努めた。
 - ③ インフルエンザについては、流行前に予防接種を行った。
 - ④ 浴槽の水質検査(レジオネラ菌)を年1回分析センターにて実施した。
 - ⑤ 新型コロナウイルス等の感染拡大を防止するため、マスク・手指消毒の徹底および面会の制限をすることにより外部からの持ち込みを防止した。

<調査>

嗜好調査は年1回し、給食委員会は委託業者を交えて調査報告やメニュー・食材等の検討し、食事内容の充実を図った。

<緊急時の対応方法>

ご入居者の方の体調・健康状態の急変・変調に対してはご本人及びご家族のご指示を頂き対応した。

<事故防止対策状況>

令和6年度事故報告書 7 件 (介護保険課へ報告済み)

事故状況・・・転倒等

解決方法・・・事故の内容・処置・ご家族への連絡事項等を記録し、原因を追究し再発防止に反映できるようスタッフへ周知していく。
病院を受診した事故は、速やかに高松市介護保険課へ報告する。

令和6年度ヒヤリハット報告書 32 件

事故までに至らなかったが、ヒヤットした事、ハットした事を記録し、スタッフ間で情報を共有し再発防止に役立てている。

<苦情解決関係>

令和6年度苦情 2 件

苦情・・・個人的問題に関する事

ご入居者やご家族が苦情や意見が出しやすいように苦情ボックスを事務所受付に設置している。終会全体で苦情相談窓口を置き、適切な対応をする為に第三者委員を置いている。苦情があった場合は担当者が内容を把握し、適切な解決を図る事に努める。今年の苦情については、理解を頂き処理出来ている。

<定例行事> ケアハウスラフォーレ国分寺

内 容	日 付	平均 参加人数
お誕生会	4/15 5/13 6/10 7/1 8/12 9/9 10/21 11/19 3/25	15.00
カ ラ オ ケ	4/19	3.00
映 画 鑑 賞	4/9 5/14 10/29 11/15 11/24 12/10 2/14	4.00

<令和6年度職員研修> ケアハウスラフォーレ国分寺

日 付	研修受講内容	参 加 者
R06年 4月23日	業務継続計画BCP策定	施設長・ケアマネ 介護・看護・栄養士
5月21日	がんの痛みの緩和ケア	施設長 介護・看護・栄養士
	感染予防～ノロウイルスによる食中毒～	職員全員
6月19日	事故防止活動の基礎知識	施設長 介護・看護・栄養士
7月20日	感染症とは	職員全員
8月20日	食中毒の予防	職員全員
9月17日	身体拘束の排除	職員全員
10月22日	高齢者虐待の防止①	職員全員
11月19日	医療安全の基本的考え方	職員全員
	転倒転落防止へのアプローチ	職員全員
12月18日	身体拘束の排除	職員全員
R07年 1月14日	高齢者虐待の防止②	職員全員
2月19日	BCP作成後の検証と確認	施設長 介護・看護・栄養士
3月25日	介護職のコンピテンシー、情報セキュリティ	施設長 介護・看護・栄養士

令和6年度 (介護予防) 認知症対応型共同生活介護
グループホームあいむ
事業報告

グループホームはご入居者が自らのお家で普通の生活を送れるような環境づくりを目指し、生活の援助・支援に努めるとともに一層のサービスの向上に努めました。入居状況は定員9名の1ユニット、令和7年3月31日現在7名です。

<介護度別入居状況>

令和7年3月31日現在

介護度	男性	女性	合計(人)
要介護1	0	1	1
要介護2	1	3	4
要介護3	1	1	2
要介護4	0	0	0
要介護5	0	0	0
計	2	5	7

<入居者年齢状況>

令和7年3月31日現在

	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	計(人)
男	0	0	0	0	2	0	0	2
女	0	0	0	1	0	1	3	5
計	0	0	0	1	2	1	3	7

<平均年齢>

令和7年3月31日現在

男	女	全体(歳)
82.5	88.2	86.5

<施設食事の状況>

令和7年3月31日現在

主 食	普 通 食	6名	副 食	普 通 食	6名
	粥 食	10名		刻 み 食	1名
	ミキサー食	0名		ミキサー食	0名

<基本方針>

1. 入居している高齢者は「介護を受ける者」でなく、「生活する主体」として又、スタッフは「介護の提供者」ではなく、「生活のパートナー」として意識を共有する事に重点をおく。
2. 地域福祉の推進に協力し、地域に親しまれる開放された施設づくりを行う。
3. ご入居者に対し「ゆったりとした自由な暮らし」「自分らしさや誇りを保った暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分でやれる喜びと達成感のある暮らし」を実現する為のケアを行う。

<生活とケアのあり方>

1. ご入居者にとってグループホームが自宅に代わる家であることを前提におき、スタッフは家の暮らしの豊かさを支えるケアを常に考える。
2. 主人公はご入居者ご本人なので、ご入居者が誇りを保ち、自分らしい行動を表現しながら暮らせるようスタッフは目立たぬ形で支えていく事を心がける。
3. スタッフは一方的なケア提供者でなく、ケアする以前に認知の方と一緒に時間を過ごす事を重視する。
4. 連携医療機関と緊密な連絡・調整を図り、夜間を含めた緊急時の管理体制を整える。

<レクリエーション>

毎日の生活の中で、個々の目的に合ったレクリエーション(リハビリ体操・ゲーム・カレンダー作成等)を通して身体機能の低下防止、機能向上を図り、四季折々の行事・活動を実施した。

<職員の意識改革>

1. 職員会議の他、給食委員会を開催し、職員が共通の認識を持ち充実を図った。

<生活の安全対策>

1. 建物設備の維持管理
建物設備の清掃点検を心がけ、維持・保守管理を徹底した。
2. 防災対策
防災機器の定期点検、夜間火災想定避難訓練を年2回実施、緊急連絡網の整備

をした。

3. 感染対策

- ① 衛生管理について浴室・台所等の水回りの害虫駆除を年2回実施した。
- ② 感染予防に対する勉強会を行い、知識と意識の向上に努めた。
- ③ インフルエンザについては、流行前に予防接種を行った。
- ④ 新型コロナ等の感染症については、マスク・手指消毒の徹底と面会制限により予防に努めた。

<緊急時の対応方法>

ご入居者の体調・健康状態の急変・変調に対してはご本人及びご家族のご指示を頂き対応した。

<事故防止対策状況>

令和6年度事故報告書 5 件 (介護保険課へ報告済み)

事故状況・・・骨折、外傷(剥離など)裂傷、打撲等

解決方法・・・第一発見者が事故報告書を提出し、事故の内容・処置・結果・予防対策・ご家族への連絡事項を記録し原因を追究し今後の事故防止の為スタッフ全員に周知をしていく。病院を受診した事故は、速やかに高松市介護保険課へ報告をする。

令和6年度ヒヤリハット報告書 22 件

スタッフが介護等で事故までに至らなかったがヒヤットした事を記録しスタッフ間で情報を共有し再発防止に役立てている。

<指定地域密着型サービス外部評価>

実施回数は2年に1回、社会福祉協議会より訪問調査があります。
毎回結果報告あり、ワムネットにて公表しています。

<令和6年度グループホーム運営推進会>

通常、地域包括センター職員・国分寺ボランティア会長・地域の民生員・ご家族の代表者・グループホームの代表者及び管理者・計画作成担当者を構成員とする運営推進会を2ヶ月に1度開催していますが、新型コロナウイルスのため書面を作成し、高松市介護保険課や構成員等に一式送付しています。

< 苦情解決関係 >

令和6年度苦情 3 件

苦情・・・接遇他

ご入居者やご家族が苦情や意見が出しやすいように苦情ボックスを3ヶ所設置している。終会全体として苦情相談窓口を置き、適切な対応をする為に第三者委員を置いている。苦情があった場合は担当者が内容を把握し、適切な解決を図る事に努める。今年の苦情については、十分な話し合いを持ち理解を頂き処理できている。

< 令和6年度職員研修 >

研 修 名	参 加 者
認知症ケアの倫理	管理者・介護職員
虐待の分類、虐待ってどこまで	管理者・介護職員
転倒・転落について	管理者・介護職員

< 令和6年度職員定例会 >

内 容	頻 度	参 加 者
職員会	毎月1回	管理者
身体拘束委員会・感染対策委員会・事故防止委員会	毎月1回	各委員

令和6年度 介護老人福祉施設
特別養護老人ホームアイムの杜
事業報告

入所者様、家族様に満足して頂ける介護サービスの提供を基本姿勢として、入所者様が安全で安心した生活が維持できるように、介護職員、看護職員をはじめ関係スタッフが連携してサービス向上に努めております。令和7年3月31日現在の入所者数は47名でした。

<入退所状況>

月	入所	退所				
		死亡		家庭	長期入院	他施設
		施設	病院			
4	0	0	1	0	0	0
5	2	0	0	0	1	0
6	0	0	0	0	0	0
7	0	1	1	0	1	0
8	0	0	0	0	0	0
9	2	1	0	0	1	0
10	3	1	0	0	0	0
11	1	1	0	0	0	1
12	0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	0	0	0
2	1	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0
今年度計	10	5	3	0	3	1
前年度計	5	2	0	0	4	0

<介護度別入居状況>

令和7年3月31日現在

介護度	男性	女性	合計(人)
要介護1	0	0	0
要介護2	0	0	0
要介護3	2	13	15
要介護4	3	17	20
要介護5	2	10	12
計	7	40	47

<入居者年齢状況>

令和7年3月31日現在

歳	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計 (人)
男	0	1	1	3	1	1	0	0	7
女	0	2	0	3	5	14	9	7	40
計	0	3	1	6	6	15	9	7	47

<平均年齢> 令和7年3月31日現在

男	女	全体(歳)
77.8	87.6	86.1

<最高・最若年齢>

最高年齢	男	87	女	101
最若年齢	男	68	女	66

<出身市町村別入所者状況>

令和7年3月31日現在

市町村	高松市	坂出市	綾川町	さぬき市	その他	計(人)
男	5	1	0	0	1	7
女	34	2	1	2	1	40
計(人)	39	3	1	2	2	47

<月別外泊・外出状況>

月	外出	外泊	月	外出	外泊
4	0	0	10	0	0
5	0	0	11	2	0
6	0	0	12	0	0
7	0	0	1	0	0
8	0	0	2	0	0
9	0	0	3	0	0
			合計	2	0

<生活の安全対策>

1. 防災対策

防災機器の定期点検、避難訓練を年2回実施、緊急連絡網の整備をした。

2. 感染対策

- ① 衛生管理について浴室・台所等の水廻りの害虫駆除年2回実施した。
- ② 感染症情報をチェックし、消毒等の励行や面会者の持ち込みを制限し防止している。インフルエンザについては、流行前に予防接種を行い、新型コロナウイルス

ルスについては、感染拡大を防止するため、マスク・消毒の徹底および面会制限を行った。

- ③ 浴槽の衛生管理として、入浴前・中・後の3回の遊離残留塩素濃度測定、専門業者による浴槽水の検査を年2回実施しレジオネラ菌などの予防に努めます。

<緊急時の対応>

ご入居者の体調・健康状態の急変・変調に対してはご本人及びご家族のご指示を頂き対応した。

<事故報告書状況>

- (1) 令和6年度事故報告書 8件 (介護保険課へ報告済み)

事故状況・・・転倒転落 剥離 その他

解決方法・・・発生時、第一発見者が事故報告書を提出し、事故の内容・処置・結果・予防対策・ご家族への連絡事項を記録し、早急に事故防止対策委員会を開催し原因解明を迫り、今後の事故防止に反映出来るようスタッフ全員に周知する。病院受診した事故は速やかに高松市介護保険課に報告する。

令和6年度ヒヤリハット報告書 110件

ヒヤリハットをまとめて回覧している。スタッフが介護等で事故までに至らなかったがヒヤッとした事、ハットした事を大小関わらず記録しスタッフ間で情報を共有し再発防止に役立てている。

- (2) 事故防止チーム、事故防止対策委員会

介護職員を中心に事故防止チームを結成し、ヒヤリハット報告書のまとめ、助言、事故報告書提出分の分析、対策会議、施設内研修の検討を行い、介護事故の再発防止のために話し合っている。

<苦情解決関係>

令和6年度苦情 2件

苦情・・・サービスの内容について

ご入所者やご家族が苦情や意見が出やすいように苦情ボックスを2ヶ所設置している。終会で苦情相談窓口を置き、適切な対応をする為に第三者委員を置いている。それぞれの苦情に関して適切な解決処理をしている。

<会議開催>

会議	開催頻度
業務連絡会・事故防止対策委員会・身体拘束廃止委員会・給食委員会 苦情解決委員会・優先入所検討委員会・褥瘡予防委員会 感染予防対策委員会・医療行為ケア安全対策委員会・ユニット会議	毎月1回開催

<令和6年度職員研修>

日付	研修名	参加者
R6年04月02日	業務継続計画研修	全職員
R6年05月15日	事故防止研修	全職員
R6年05月27日	特定給食施設等従者研修	栄養士
R6年06月19日	身体拘束廃止研修	全職員
R6年07月17日	感染予防研修	全職員
R6年08月21日	褥瘡予防研修	全職員
R6年09月18日	虐待防止研修	全職員
R6年10月05日	転倒転落防止対策の立案ツール	施設長
R6年10月07日	業務継続計画研修	全職員
R6年11月20日	看取り介護研修	全職員
R6年12月16日	施設長・管理者研修「マネジメント」	施設長
R6年12月18日	事故防止研修	全職員
R7年01月15日	感染予防研修	全職員
R7年02月19日	医行為研修	全職員
R7年03月19日	身体拘束廃止研修、介護保険制度について	全職員

<年間行事> 特別養護老人ホームアイムの杜

日付	施設内行事	施設外行事	参加人数 名
R06年 4月1～3日		お花見	7
4月8日	ホーム喫茶		39
4月9日	ホーム喫茶		
4月10日	ホーム喫茶		
4月21日	書道クラブ		4
5月9日	ホーム喫茶		37
5月10日	ホーム喫茶		
5月11日	ホーム喫茶		
5月16日	書道クラブ		7
6月6日	ホーム喫茶		37
6月7日	ホーム喫茶		
6月8日	ホーム喫茶		
6月13日	書道クラブ		6
6月14日	書道クラブ		
7月11日	ホーム喫茶		38
7月12日	ホーム喫茶		
7月13日	ホーム喫茶		
8月15日	書道クラブ		4
8月16日	書道クラブ		
8月20日	夏祭り		13
9月5日	ホーム喫茶		36
9月6日	ホーム喫茶		
9月7日	ホーム喫茶		
9月12日	書道クラブ		4
9月17日	敬老会		18
10月10日	ホーム喫茶		39
10月11日	ホーム喫茶		
10月12日	ホーム喫茶		
10月21日	書道クラブ		6
10月22日	書道クラブ		

令和6年度 通所介護・介護予防通所介護相当・通所型サービスA
 デイサービスセンターアイムの杜
 事業報告

いつも笑顔とあたたかさが溢れるひとときを過ごして頂けるようサービスの提供に努めました。今年度もおいては、入院および施設入所といった利用者様が多くみられ、利用率としてはなかなか伸びない状況となりました。今後は利用待機者の確保が重要になってくると思います。令和7年3月における1日平均利用者数は8.69名となりました。

<月別実績>

月	利用日数	定員×利用日数	利用延人数	1日あたりの平均利用者数	利用率 (%)
4月	26	780	286	11.00	36.6
5月	27	810	276	10.22	34.0
6月	25	750	277	11.08	36.9
7月	25	750	271	10.84	36.1
8月	27	810	285	10.56	35.1
9月	25	750	265	10.60	35.3
10月	27	810	295	10.93	36.4
11月	26	780	297	11.42	38.0
12月	26	780	291	11.19	37.3
1月	25	750	242	9.68	32.2
2月	24	720	242	10.08	33.6
3月	26	780	226	8.69	28.9
年間	309	9,270	3,253	10.53	35.0

<介護度別利用状況>

令和7年3月31日現在

介護度	男性	女性	合計(人)
事業対象者	0	0	0
要支援1	0	0	0
要支援2	0	2	2
要介護1	4	8	12
要介護2	0	6	6
要介護3	0	4	4
要介護4	0	0	0
要介護5	0	0	0
計	4	20	24

<利用者別年齢状況>

令和7年3月31日現在

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	計(人)
男	0	0	0	1	0	3	4
女	0	0	2	6	6	6	20
計	0	0	2	7	6	9	24

<施設食事の状況>

令和7年3月31日現在

主食	普通食	23名	副食	普通食	24名
	粥食	0名		刻み食	0名
	軟飯	1名		超刻み食	0名

<生活の安全対策>

1. 建物設備の維持管理

建物設備の清掃点検を心がけ、維持・保守管理を徹底した。

2. 防災対策

防災機器の定期点検、避難訓練を年2回実施、緊急連絡網の整備をした。

3. 感染対策

① 感染予防に対する勉強会を行い、知識と意識の向上に努めた。

② インフルエンザについては、流行前に予防接種を行い、新型コロナ感染症については、マスク・手指消毒の徹底により予防に努めた。

<事故防止対策状況>

令和6年度事故報告書 0 件

事故状況・・・なし

解決方法・・・発生時、第一発見者が事故報告書を提出し、事故の内容・処置・結果・予防対策・ご家族への連絡事項を記録し、早急に原因解明を追及し、今後の事故防止に反映出来るようスタッフ全員に周知する。病院受診した事故は速やかに高松市介護保険課に報告する。

令和6年度ヒヤリハット報告書 11 件

スタッフが介護等で事故までに至らなかったが、ヒヤッとした事やハットした事を記録しスタッフ間で情報を共有し再発防止に役立てている。

<苦情解決関係>

令和6年度苦情 1 件

苦情・・・他の利用者様のことで 他

ご利用者やご家族が苦情や意見が出やすいよう苦情ボックスを受付に設置し、終会全体として苦情相談窓口を置き、適切な対応をする為に第三者委員を置いている。苦情があった場合は担当者が内容を把握し適切な解決を図る事に努める。

令和6年度 (介護予防) 短期入所生活介護
ショートステイあいむ
事業報告

定期的に利用される方の定着および新規の方の利用により、今年度の平均利用率は約69%となり、介護サービスを通して地域との関わりを保ちながら、ご利用者の日々の生活の支援に努めて参りました。

<出身市町村別利用者状況>

市町村	高松市	綾川町	その他	計(人)
男	8	0	0	8
女	23	2	0	25
計(人)	31	2	0	33

令和7年3月の実人数です。

<利用者年齢状況>

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	計(人)	平均年齢(才)
男	1	0	2	1	2	2	8	83.75
女	1	1	1	7	6	9	25	86.12
計	2	1	3	8	8	11	33	85.54

令和7年3月の実人数です。

<要介護度別 月別延べ利用者数>

要介護度		月											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	男	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
要介護1	男	10	0	0	0	7	0	6	0	0	0	0	0
	女	66	41	19	2	13	7	0	5	10	27	0	7
要介護2	男	139	131	150	112	93	97	93	90	93	93	87	96
	女	66	97	101	100	74	73	93	75	72	62	35	51
要介護3	男	120	113	92	93	126	98	85	106	66	62	58	62
	女	287	268	245	267	259	217	231	226	262	271	268	267
要介護4	男	0	0	0	0	23	30	58	83	86	62	58	62
	女	150	155	165	178	177	175	182	176	177	155	164	115
要介護5	男	0	0	0	0	0	0	31	30	31	31	5	0
	女	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	62
計(人)	男	269	244	242	219	249	225	273	309	276	248	208	220
	女	629	623	590	609	585	532	568	542	583	577	523	504
	計	898	867	832	828	834	757	841	851	859	825	731	724
1日当たり 平均利用者数		29.9	28.0	27.7	26.7	26.9	25.2	27.1	28.4	27.7	26.6	26.1	23.4

<生活とケアのあり方>

1. 在宅生活の延長として、どこに居ても違和感なく生活出来るよう支援に努めた。
2. 個人の自主性を尊重し、個人の希望に沿う支援に努めた。
3. ご利用者のご家族の意向をくみ取り、双方が納得の行く支援の難しさを痛感し、試行錯誤の連続であるが、一歩前進できる関係を求め、今後も継続課題である。

<職員の意識改革>

1. 毎月1回処遇会議を開催し、月の行事、ご利用者個々の状況、問題点を全員で協議、方向付けを行い共通の認識を持つ事により、ご利用者に優しい介護支援が出来るよう心掛けた。
2. 定期的に職員研修会を開催し、職員の資質の向上に努めた。

<生活の安全対策>

1. 建物設備の維持管理
定期的なメンテナンスと、清掃点検を心掛けた。
2. 防災対策
年2回の夜間想定避難訓練を施設内で実施した。ご利用者と職員参加で実施する事が出来、非常時の認識を意識づけた。
3. 感染対策
予防接種の早期対応により、インフルエンザの感染予防を心掛け、新型コロナ感染症については、マスク・手指消毒の徹底と面会制限により予防に努めた。

<レクリエーション>

全体でのリハビリ体操やゲームが主で、ご利用者に喜ばれるレクリエーションを模索しながら、コロナ渦でもできる行事を試みた。

<緊急時の対応方法>

緊急時のマニュアルおよび個々の対応一覧表により、利用者の急変時に対応することを心掛けた。

<事故防止対策状況>

(1) 令和6年度入居者事故報告書 10 件 (介護保険課へ報告済み)

事故状況・・・転倒 剥離 誤薬 他

解決方法・・・発生時、第一発見者が事故報告書を提出し、事故の内容・処置・結果・予防対策・ご家族への連絡事項を記録し、早急に事故防止対策委員会を開催し原因解明を迫及し、今後の事故防止に反映出来るようスタッフ全員に周知する。病院受診した事故は速やかに高松市介護保険課に報告する。

(2) 令和6年度ヒヤリハット報告書 29 件

転倒、ずり落ち、その他

多くの件数が発生しているが、病院を退院後、直接新規のご利用者として、施設に慣れるまでが危険との隣りあわせでの介護であり、一番ヒヤリとすることが多く、特に精神面でのトラブルがあると件数が増えている。

ヒヤリハットを書くことで、お互いが牽制し、注意を促し事故防止に繋がった。また、事故防止委員会では、個々の対応を検討し、改善を図ってきた。

<苦情解決検討委員会>

令和6年度苦情 1 件

苦情 個人的問題について

ご利用者やご家族が苦情や意見を出しやすいように苦情ボックスを事務所受付に設置している。苦情があった場合は担当者が内容を把握し、適切な解決を図ることに努める。今回の苦情については理解をいただき処理できている。

<令和6年度ショートステイあいむ 定例会(職員)>

内 容	日 付	参加者数
ミーティング	毎月1回	平均4～5人
(委員会) 身体拘束・事故防止・感染対策・褥瘡予防	毎月1回	委員3～4人
(委員会) レク・環境・オムツ・リネン・苦情	随時	委員3～4人

<令和6年度職員研修>

研 修 名	参 加 者
感染対策の基礎知識	施設長、介護、看護、相談員
医療安全	施設長、介護、看護、相談員
接遇マナー	施設長、介護、看護、相談員
介護技術研修	施設長、介護、看護、相談員
防災関連研修	施設長、介護、看護、相談員
身体拘束廃止研修	施設長、介護、看護、相談員
虐待防止・不適切ケア	施設長、介護、看護、相談員
個人情報保護研修	施設長、介護、看護、相談員

令和6年度（介護予防）認知症対応型共同生活介護
グループホームアイムの杜
事業報告

ご入居者が自らのお家で普通の生活を送れるような環境づくりを目指し、生活の援助・支援に努めるとともに一層のサービスの向上に努め、入居状況は定員9名の2ユニット、令和7年3月31日現在15名です。

<介護度別入居状況>

令和7年3月31日現在

介護度	男性	女性	合計(人)
要介護1	1	2	3
要介護2	1	3	4
要介護3	2	5	7
要介護4	0	1	1
要介護5	0	0	0
計	4	11	15

<入居者年齢状況>

令和7年3月31日現在

	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	計(人)
男	0	0	0	1	1	2	0	4
女	0	0	0	2	2	2	5	11
計	0	0	0	3	3	4	5	15

<平均年齢>

令和7年3月31日現在

男	女	全体(歳)
84.0	87.0	86.2

<施設食事の状況>

令和7年3月31日現在

(ユニット1)

主食	普通食	7名	副食	普通食	4名
	粥食	1名		刻み食	3名
	ミキサー食	0名		ミキサー食	1名

(ユニット2)

主食	普通食	3名	副食	普通食	2名
	粥食	4名		刻み食	3名
	ミキサー食	0名		ミキサー食	2名

<基本方針>

1. 入居している高齢者は「介護を受ける者」でなく、「生活する主体」として又、スタッフは「介護の提供者」ではなく、「生活のパートナー」として意識を共有する事に重点をおく。
2. 地域福祉の推進に協力し、地域に親しまれる開放された施設づくりを行う。
3. ご入居者に対し「ゆったりとした自由な暮らし」「自分らしさや誇りを保った暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分でやれる喜びと達成感のある暮らし」を実現する為のケアを行う。

<生活とケアのあり方>

1. ご入居者にとってグループホームが自宅に代わる家であることを前提におき、スタッフは家の暮らしの豊かさを支えるケアを常に考える。
2. 主人公はご入居者ご本人なので、ご入居者が誇りを保ち、自分らしい行動を表現しながら暮らせるようスタッフは目立たぬ形で支えていく事を心がける。
3. スタッフは一方的なケア提供者でなく、ケアする以前に認知の方と一緒に時間を過ごす事を重視する。
4. 連携医療機関と緊密な連絡・調整を図り、夜間を含めた緊急時の管理体制を整える。

<レクリエーション>

毎日の生活の中で、個々の目的に合ったレクリエーション(リハビリ体操・ゲーム・カレンダー作成等)を通して身体機能の低下防止、機能向上を図り、四季折々の行事・活動を実施した。

<職員の意識改革>

1. 職員会議の他、給食委員会を開催し、職員が共通の認識を持ち充実を図った。

<生活の安全対策>

1. 建物設備の維持管理

建物設備の清掃点検を心がけ、維持・保守管理を徹底した。

2. 防災対策

防災機器の定期点検、夜間火災想定避難訓練を年2回実施、緊急連絡網の整備をした。

3. 感染対策

- ① 衛生管理について浴室・台所等の水回りの害虫駆除を年2回実施した。
- ② 感染予防に対する勉強会を行い、知識と意識の向上に努めた。
- ③ インフルエンザについては、流行前に予防接種を行った。
- ④ 新型コロナ感染症については、マスク・手指消毒の徹底と面会制限により予防に努めた。

<緊急時の対応方法>

ご入居者の体調・健康状態の急変等にはご本人及びご家族のご指示を頂き対応した。

<事故防止対策状況>

令和6年度事故報告書 1 件 (介護保険課へ報告済み)

事故状況・・・転倒

解決方法・・・第一発見者が事故報告書を提出し、事故の内容・処置・結果・予防対策・ご家族への連絡事項を記録し原因を追究し今後の事故防止の為スタッフ全員に周知をしていく。病院を受診した事故は、速やかに高松市介護保険課へ報告をする。

令和6年度ヒヤリハット報告書 7 件

スタッフが介護等で事故までに至らなかったがヒヤッとした事を記録しスタッフ間で情報を共有し再発防止に役立てている。

<指定地域密着型サービス外部評価>

実施回数は2年に1回、社会福祉協議会より訪問調査があります。

毎回結果報告あり、ワムネットにて公表しています。

<令和6年度グループホーム運営推進会>

通常、地域包括センター職員・国分寺ボランティア会長・地域の民生員・ご家族の代表者・グループホームの代表者及び管理者・計画作成担当者を構成員とする運営推進会を2ヶ月に1度開催しています。

< 苦情解決関係 >

令和6年度苦情 5 件

苦情・・・他者に関すること 他

ご入居者やご家族が苦情や意見が出しやすいように苦情ボックスを設置している。終会全体として苦情相談窓口を置き、適切な対応をする為に第三者委員を置いている。苦情があった場合は担当者が内容を把握し、適切な解決を図る事に努める。今年の苦情については、十分な話し合いを持ち理解を頂き処理できている。

< 令和6年度職員研修 >

研 修 名	参 加 者
事故防止「転倒・転落について考えよう」	介護職員
身体拘束「そもそも拘束ってなに？」	介護職員
感染症防止「清潔保持の大切さ」	介護職員
「認知症の倫理」	介護職員
「脱水・熱中症について」	介護職員
「虐待の分類、どこまでが虐待」	介護職員
「事故発生状況の情報交換 ヒヤリハットを事故につなげない工夫」	介護職員
「身体拘束の情報交換・拘束廃止の難しさ」	介護職員
「訓練後の感想」	介護職員
香川県認知症介護実践者研修	介護職員
「認知症について学ぶ」	介護職員
「看取り・死生観」	介護職員
「アンケートの集計を見てどう思うか」	介護職員

< 令和6年度職員定例会 >

内 容	頻 度	参 加 者
職員会	毎月1回	施設長・管理者
身体拘束委員会・感染対策委員会・事故防止委員会	毎月1回	各委員

令和6年度 (介護予防) 短期入所生活介護
ショートステイたちばな荘
事業報告

昨年度同様、利用率の維持・向上に努めて参りました。利用率としては約76%の利用率となりました。

<出身市町村別利用者状況>

市町村	高松市	綾川町	坂出市	観音寺市	その他	計(人)
男	9	1	0	0	0	10
女	27	3	3	1	1	35
計(人)	36	4	3	1	1	45

令和7年3月の実人数です。

<利用者年齢状況>

	~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~	計(人)	平均年齢 (歳)
男	0	1	2	0	2	5	10	87.8
女	0	0	0	3	11	21	35	90.3
計	0	1	2	3	13	26	45	89.7

令和7年3月の実人数です。

< 要介護度別 月別利用者数・利用日数表 >

要介護度		月											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	5	6	0	0	0	0
要支援2	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	3	0
要介護1	男	0	0	0	4	4	11	0	5	1	0	0	0
	女	60	62	60	62	62	30	31	30	54	31	28	36
要介護2	男	72	62	30	31	1	0	0	0	0	0	0	2
	女	202	242	253	271	258	213	239	222	186	208	175	204
要介護3	男	138	145	182	191	204	210	244	195	188	198	196	186
	女	160	197	215	235	246	319	300	284	284	331	338	374
要介護4	男	30	55	79	116	83	74	93	103	93	93	84	93
	女	221	174	148	153	161	149	154	165	215	215	195	215
要介護5	男	0	0	0	22	31	30	31	5	0	0	0	0
	女	150	164	161	166	138	135	115	104	107	108	112	85
計(人)	男	240	262	291	364	323	325	368	308	282	291	280	281
	女	793	839	837	887	871	846	844	811	846	893	851	914
	計	1033	1101	1128	1251	1194	1171	1212	1119	1128	1184	1131	1195
1日当たり平均利用者数		34.4	35.5	37.6	40.4	38.5	39.0	39.1	37.3	36.4	38.2	40.4	38.5

ベッド数 50床

<生活とケアのあり方>

1. 在宅生活の延長として、どこに居ても違和感なく生活出来るよう支援に努めた。
2. 個人の自主性を尊重し、個人の希望に沿う支援に努めた。
3. ご利用者のご家族の意向をくみ取り、双方が納得の行く支援の難しさを痛感し、試行錯誤の連続であるが、一歩前進できる関係を求め、今後も継続課題である。

<職員の意識改革>

1. 毎月1回処遇会議を開催し、月の行事、ご利用者個々の状況、問題点を全員で協議、方向付けを行い共通の認識を持つ事により、ご利用者に優しい介護支援が出来るよう心掛けた。
2. 定期的に職員研修会を開催し、職員の資質の向上に努めた。

<生活の安全対策>

1. 建物設備の維持管理
定期的なメンテナンスと、清掃点検を心掛けた。
2. 防災対策
年2回夜間想定避難訓練を施設内で実施した。ご利用者と職員参加で実施する事が出来、非常時の認識を意識づけた。
3. 感染対策
予防接種の早期対応により、インフルエンザの感染予防を心掛け、新型コロナ感染症対策として、マスク・手指消毒の徹底および面会の制限を行った。

<レクリエーション>

全体でのリハビリ体操など、ご利用者に喜ばれるレクリエーションを模索しながら、コロナ渦でも楽しめるやり方で行えた。

<給食の状況>

前年度の内容を踏まえ、毎月季節に合った行事食を提供した。

<緊急時の対応方法>

緊急時のマニュアルおよび個々の対応一覧表により、利用者の急変時に対応することを心掛けた。

<事故防止対策状況>

(1) 令和6年度入居者事故報告書 1 件 (介護保険課へ報告済み)

事故状況・・・転倒

解決方法・・・発生時、第一発見者が事故報告書を提出し、事故の内容・処置・結果・予防対策・ご家族への連絡事項を記録し、早急に事故防止対策委員会を開催し原因解明を迫り、今後の事故防止に反映出来るようスタッフ全員に周知する。病院受診した事故は速やかに高松市介護保険課に報告する。

(2) 令和6年度ヒヤリハット報告書 66 件

多くの件数が発生しているが、病院を退院後、直接新規のご利用者として、施設に慣れるまでが危険との隣りあわせでの介護であり、一番ヒヤリとすることが多く、特に精神面でのトラブルがあると件数が増えている。

ヒヤリハットを書くことで、お互いが牽制し、注意を促し事故防止に繋がった。また、事故防止委員会では、個々の対応を検討し、改善を図ってきた。

<苦情解決検討委員会>

令和6年度苦情 2 件

苦情・・・食事の温度

ご利用者やご家族が苦情や意見を出しやすいように苦情ボックスを事務所受付に設置している。苦情があった場合は担当者が内容を把握し、適切な解決を図ることに努める。今回の苦情については理解をいただき処理できている。

<令和6年度 定例会(職員)>

内 容	日 付	参加者数
ミーティング	毎月1回	5人程度
(委員会) 身体拘束・事故防止・感染対策・褥瘡予防	毎月1回	委員8人
(委員会) レク・環境・オムツ・リネン・苦情	随時	委員2～3人

<令和6年度職員研修>

研 修 名	参 加 者
感染予防 コロナウイルス	施設長・介護・看護・相談員
事故防止 緊急対応	施設長・介護・看護・相談員
高齢者の熱中症対策	施設長・介護・看護・相談員
誤嚥に早く気付く 応急処置	施設長・介護・看護・相談員
施設内感染 シミュレーション	施設長・介護・看護・相談員
身体拘束について	施設長・介護・看護・相談員
嚥下機能が低下している方の介助	施設長・介護・看護・相談員
接遇とは	施設長・介護・看護・相談員
高齢者虐待（自己チェックシート）	施設長・介護・看護・相談員
虐待の種類 防ぐには	施設長・介護・看護・相談員
身体拘束 疑われる事例	施設長・介護・看護・相談員
倫理及び法令順守	施設長・介護・看護・相談員

令和6年度 介護付有料老人ホーム
ナーシングホームあいむ
事業報告

ナーシングホームはご入居者が安全で安心してよりよい生活が送れるようサービスの向上を目指し安定的かつ継続的な事業運営を確保し、ご入居者の尊厳を重視し地域に親しまれる開放された施設づくりに取り組んでおります。

入居状況は定員36名中、令和7年3月31日現在28名で入居率77%です。

<介護度別入居状況>

令和7年3月31日現在

介護度	男性	女性	合計(人)
要介護1	3	2	5
要介護2	1	3	4
要介護3	3	5	8
要介護4	1	9	10
要介護5	0	1	1
計	8	20	28

<入居者年齢状況>

令和7年3月31日現在

歳	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	計(人)
男	1	0	1	0	3	1	2	8
女	1	0	0	2	1	5	11	20
計	2	0	1	2	4	6	13	28

<平均年齢>

令和7年3月31日現在

男	女	全体(歳)
81.3	88.7	86.6

<出身市町村別入所者状況>

令和7年3月31日現在

	高松市	坂出市	綾川町	丸亀市	その他	計(人)
男性	8	0	0	0	0	8
女性	15	1	2	1	1	20
計(人)	23	1	2	1	1	28

<基本方針>

1. 有料老人ホームは、安定的かつ継続的な事業運営を確保していきご入居者の個人としての尊厳を確保しつつ福祉の向上を図る。
2. 地域福祉の推進に協力し、地域に親しまれる開放された施設づくりを行う。
3. 食事や催し物などご入居者の様々なニーズに対応できるようソフト面を充実する。
4. 介護度の高い方の寝たきりを防止する為、居室での時間を少なく工夫する。

<生活とケアのあり方>

1. 24時間介護スタッフが常駐し、介護サービスを提供した。
2. スタッフは、介護プランによりご入居者のプライバシーを尊重するとともに、各人の自由を尊重した介護ケアを行った。
3. ご入居者の生活状況や家族及び心身の健康状況を把握し、よき相談相手となり又ご入居者が誇りを持ち自分らしく暮らせるよう目立たぬ形で介護をした。
4. 医療機関と緊密な連絡・調整を図り、夜間を含めた緊急時の管理体制を整えた。

<レクリエーション>

毎日の日常の中からそれぞれの目的に合ったリハビリ体操・ゲーム・カレンダー作成等を通して身体機能の低下防止、機能向上を図り、密にならないよう工夫して取り組んだ。

<職員の意識改革>

1. 毎月初めに処遇会議を開催し、月の行事、ご入居者個々の状況、問題点を全員で協議方向付けを行い共通の認識を持つ事により、ご入居者に優しい介護支援ができるよう心掛けた。
2. 快適な生活環境への配慮を心掛けるとともにスタッフの質を向上させる為研修を実施し現実的な視点やアイデアを身につけるように努めた。
3. 職員会議の他、給食委員会を開催し、職員が共通の認識を持ち充実を図った。

<施設食事の状況>

令和7年3月31日現在

主 食	普 通 食	8名	副 食	普 通 食	7名
	全 粥 食	9名		刻 み 食	9名
	粥ミキサー	8名		超 刻 み 食	0名
				ミキサー食	9名

※入所者28名のうち、3名が経管栄養対応である。

<生活の安全対策>

1. 防災対策

防災機器の定期点検、夜間火災想定避難訓練を年2回実施、緊急連絡網の整備をした。

2. 感染対策

- ① 衛生管理について浴室・台所等の水廻りの害虫駆除年2回実施した。
- ② 感染症情報をチェックし、消毒等の励行や面会者の持ち込みを制限し防止している。インフルエンザについては、流行前に予防接種を行い、新型コロナ感染症については、マスク・手指消毒の徹底及び面会制限により予防に努めた。

<緊急時の対応>

ご入居者の体調・健康状態の急変・変調に対してはご本人及びご家族のご指示を頂き対応した。

<事故報告書状況>

(1) 令和6年度事故報告書 15件 (介護保険課へ報告済み)

事故状況・・・剥離 他

解決方法・・・発生時、第一発見者が事故報告書を提出し、事故の内容・処置・結果・予防対策・ご家族への連絡事項を記録し、早急に事故防止対策委員会を開催し原因解明を追及し、今後の事故防止に反映出来るようスタッフ全員に周知する。病院受診した事故は速やかに高松市介護保険課に報告する。

令和6年度ヒヤリハット報告書 89件

スタッフが介護等で事故までに至らなかったがヒヤリとした事、ハットした事を記録しスタッフ間で情報を共有し再発防止に役立てている。

(2) 事故防止対策委員会

毎月事故防止対策委員会を開き、事故報告書やヒヤリハット報告書から事故処置や連絡方法は適切か、防止対策はどうかなど内容を検討し、介護事故の再発防止のために話し合っている。

<苦情解決関係>

令和6年度苦情 8件

苦情・・・・・・スタッフのケアに関する苦情 その他

ご入居者やご家族が苦情や意見が出やすいように苦情ボックスを2ヶ所設置

している。終会で苦情相談窓口を置き、適切な対応をする為に第三者委員を置いて
 いる。それぞれの苦情に関して適切な解決処理をしている。

<介護実習事業>

なし

<令和6年度職員研修>

研 修 名	参 加 者
虐待防止について	看護・介護
急変時の対応について	看護・介護
認知症について	看護・介護
感染症について	看護・介護
接遇について	看護・介護
食中毒について	看護・介護
身体拘束について	看護・介護
事故防止について	看護・介護
苦情について	看護・介護
基本介護技術について	看護・介護
虐待防止について	看護・介護
プライバシーについて	看護・介護
感染症について	看護・介護
認知症について	看護・介護
事故防止について	看護・介護
身体拘束について	看護・介護

令和6年度 サービス付高齢者向け住宅
プラチナハウスアイムの杜
事業報告

令和7年3月31日現在、9名の方にご利用いただいております。

<介護度別入居状況>

令和7年3月31日現在

介護度	男性	女性	合計(人)
健全	2	2	4
要支援1	0	0	0
要支援2	0	1	1
要介護1	0	3	3
要介護2	0	0	0
要介護3	0	1	1
要介護4	0	0	0
要介護5	0	0	0
計	2	7	9

<入居者年齢状況>

令和7年3月31日現在

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	計(人)
男	0	1	0	0	0	1	2
女	0	0	0	1	5	1	7
計	0	1	0	1	5	2	9

<平均年齢>

令和7年3月31日現在

男	女	全体(歳)
83.5	87.7	86.7

<生活とケアのあり方>

1. 快適な老後生活への手助けとなるサービスを提供できるよう努めた。
2. 職員は、入居者のプライバシーを尊重するとともに、中立性を保った。